

マルチメディアDAISY図書の活用と普及・啓発活動

東京都墨田区立ひきふね図書館
谷口康卓

はじめに

墨田区立ひきふね図書館は、2013年4月京成曳舟駅前に開館し、本年で5年目を迎えた東京のなかでも比較的新しい図書館です。

障害者サービスについては、ひきふね図書館の前身のあずま図書館において、1970年代前半から提供し、いままで多くの障害者の皆様の利用をいただいております。

現在、ひきふね図書館の障害者サービス担当は、5名体制で業務を行っており、障害者資料の貸出をはじめ、資料の宅配、障害者施設への出張貸出、ボランティアのみなさまによる高齢者施設での読み聞かせ、DAISY図書などの資料作成など、幅広く障害者サービス事業を展開しています。

ひきふね図書館には、障害者貸出用と一般貸出用のマルチメディアDAISY図書を約270タイトル所蔵しています。

今回は、マルチメディアDAISY図書の障害児通所支援事業所での活用と、障害者イベントなどでの普及・啓発活

動について、ご紹介いたします。

障害児通所支援事業所での活用

(1)「キッズサポートリマ」とのつながり

図書館と障害児通所支援事業所「キッズサポートリマ」がつながりをもったのは、昨年度、図書館職員が区内の「児童通所支援事業所連絡会」に参加したことから始まりました。

この連絡会の場で、iPadによるマルチメディアDAISY図書の紹介などを行ったところ、参加していた事業所「キッズサポートリマ」の施設長から、マルチメディアDAISY図書を当施設で子どもたちに見せてほしいとの要望がありました。このことをきっかけに、通所支援事業所へのサービスが始まりました。

「キッズサポートリマ」は、特別支援学校の在校生を対象にした放課後等デイサービスとして、未就学から高校3年生までの重い心身障害のある子どもと、その家族のための施設です。

(2) 活動の様子

「キッズサポートリマ」は、横たわっていたり、介助者に抱きかかえられたり、自力での座位保持が困難な方が多く通所しています。

ある日の訪問の際は、大型絵本『かぶとむし』、『せんたくかあちゃん』の読み聞かせのほか、パネルシアターの実演を行い、利用者の子どもたちも図書館職員の質問に積極的に答える姿が多く見られました。

次に、iPadによるマルチメディアDAISY図書の子どもたちに操作してもらいました。高学年の男の子と女の子は横になりながら、2人で何を見たいか楽しそうにタイトルを選び、そのなかでも文字が多い『魔女の宅急便』を目でしっかり追いながら、時には文字を声に出しながら夢中で見ている姿も見受けられました。

また、みなさん熱心にiPadの操作をしているため時間が足りなくなり、途中で切り上げなくてはならず、最後まで続きが気になる様子で心惜しそうにしていました。施設の方も「こんなに集中して見てくれるとは思わなかったです」と感想を述べていました。

(3) 今後の取り組み

マルチメディアDAISY図書の紹介の際には、部屋を暗くして、全員が床に寝そべり、プロジェクターで天井に映

すという工夫も行いました。利用者の方は自力での在位保持が困難な方が多いため、みなさんとでもリラックスして見ることができるなど、マルチメディアDAISY図書は、利用の仕方次第で幅広い活用ができると感じています。

今後も、引き続き区内の「児童通所支援事業所連絡会」などでマルチメディアDAISY図書や「キッズサポートリマ」での活動内容などを継続的にPRしていくとともに、同じような活動を他施設でも展開するなど、マルチメディアDAISY図書の普及、活用に取り組んでいきたいと思えます。



「キッズサポートリマ」での活動の様子

障害者イベントなどでの普及・啓発活動について

(1) 「NPO法人 CANVAS」との連携

ひきふね図書館では、数か月に1回、障害のある子どもとその家族を対象に「NPO法人 CANVAS」と連携して、プログラミングワークショップを開催しています。参加した子どもたち

が、プログラミングアプリを使用し、自分たちで動くアニメーションをつくり、デジタルテクノロジーで表現する楽しさを体験できる企画です。

プログラミング体験の前に、大きなスクリーンを使用し、図書館職員によるマルチメディアDAISY図書の実演を行っています。実演が始まると「すごい」「しらなかった」など、子どもたちよりも、一緒に参加している家族の方の驚きの声が多く聞かれます。

会場には、マルチメディアDAISY図書の展示および貸出も行っており、プログラミング体験終了後に利用方法（障害者サービス登録）を説明すると、興味を示してくれる方も多く、登録者や貸出も少しずつ増えてきています。

（２）障害者福祉課との連携

墨田区では、毎年12月の障害者週間に合わせて「すみだスマイル・フェスティバル」を開催しております。障害者福祉課と墨田区障害者団体連合会が共催して開かれているイベントで、ひきふね図書館も毎年参加しています。

会場では、点字図書や拡大写本などの障害者資料と一緒に、マルチメディアDAISY図書も展示しています。マルチメディアDAISY図書は、ブースの一番目立つ位置にパソコンとiPadと原本を並べて展示して、来場者がわかりやすくマルチメディアDAISY図書を見

られるように工夫しています。

来場した方に実演すると「これも図書なのですか」「今度、子どもを連れて図書館で詳しく見てみたい」などの声も聞かれたほか、障害のあるお子さんが自らiPadを操作している光景も見られました。

現在は、学校の授業などでもタブレットが多く使用されているためか、パソコンの操作よりもiPadを操作するほうが慣れている様子でした。

このような大きなイベントに参加して実演を交えることで、障害のある方や、そうでない方にも、マルチメディアDAISY図書のことを知ってもらい、さまざまな事情で読書から離れている方でも、読書の楽しさをもっと知ってほしいと思います。



「すみだスマイル・フェスティバル」展示

さいごに

マルチメディアDAISY図書は、これまで本が読めなかった方など一人ひと

りのニーズに沿った読み方を選ぶことができるため、諸外国では積極的に導入されているツールです。

ひきふね図書館では、マルチメディアDAISY図書の普及・啓発活動を推進していますが、マルチメディアDAISY図書に興味をもってもらっても、継続的に利用している方は少ないのが現状です。

マルチメディアDAISY図書を「知っ

てもらおう」ための普及・啓発活動については、さらに充実させていく必要がありますが、今後は「多くの方に継続して利用してもらおう」ための取り組みが課題であると考えています。

少しずつですが利用者も増えてきているので、引き続きマルチメディアDAISY図書を多くの方にPRし、活用していただきたいと思います。

